桜の聖母学院新聞

発行所
福島市野田町七丁目11番1号
桜の聖母学院高校新聞部

校歌

美しきわがまなびや
山脈はめぐりて高きその姿
黄金なすそのやすらいに
汝をば育み
黄金なすそのやすらいに
みそらはほほえむ

新しい聖母元年、始まる

高城友治校長先生に聞く

昨年春、本校の歴史で初めての男性校長として、桜の聖母学院中高校長に着任した、高城友治校長先生。２年目となり、様々な新しい改革に着手なさっている。そこで新聞部では、これらの改革の狙いをじっくりとうかがうべく、直撃インタビューを試みた。

にこやかにインタビューに応じる高城校長先生

自分で考え、選択し、実行する生徒に

Q：まずはこの1年余りを振り返ってのご感想を。

A：ずっと県立高校、しかもほぼ男子校に勤めてきて、最後は女子の割合の多い会津の葵高校の校長でしたが、去年の春から女子校であるこの学校に来て、何もかもが新鮮でした。「ごきげんよう」の挨拶はたいへん気に入って使っています。生徒の皆さんは明るく落ち着いており、思いやりがあって、先生たちとの仲も良いですね。

ただ驚いたのが、45分授業を特別進学（以下特進）コースは8校時、日によっては9校時までもやることや、土曜の休みが少ないこと。こんなに詰め込んでも、消化不良になるだけでは、と思いました。また放課後の部活動も、毎日あるものは特進コースの生徒はほぼ不可能。もちろん勉強は大切ですが、勉強のために部活ができない高校生活というのはおかしい。

Q：そこで45分授業を50分とし、総合進学（以下総進）コースは基本6校時まで、特進コースも7校時までとなったんですね。

A：いま日本の教育現場では、従来型の一方的に教える授業ではなく、生徒自らがグループで考えたり発表する「アクティブ・ラーニング」の導入が進んでいます。そのためにはできれば1コマ60分程度の授業が理想ですが、せめて5分伸ばして50分は必要だと考えました。ただ、朝のＳＨＲがこれまでの8時40分からだと、昼休みが12時40分からとなり、あまりに遅いので、始業時間を10分繰り上げてＳＨＲを8時30分としました。それに伴い、朝の課外・０校時も原則廃止しました。

Q：そして放課後の課外も、特進コースは全員必修ではなく、総進コースも含めた希望者の選択制に、しかもテーマが毎月提示され、それを見て選ぶ形になりました。この目的は？

A：言われたからやる、強制だから仕方なく参加するというやり方では、自立した人間は育ちません。特に桜の聖母は、生徒の生活面でも他校よりルールが多い。ならばせめて放課後の使い方は、部活をやりたい生徒は特進コースでも部活に参加でき、自分の興味関心がある課外があれば、それを自由に選べるスタイルにして、自分の意志で考え、行動できる生徒を育てたいと、選択制にしたわけです。

ただし特進コースには第一・第三土曜日の必修課外を残し、総進コースにおいても、希望者は課外を受講できます。また土曜については全コース原則第二・第四を休みにして、自由に使える時間を増やしました。

新しい入試制度や、新カリキュラムにも対応

Q：現在の高校2年生から、高大接続改革が実施され、大学入試センター試験に代わる2021年1月実施の「大学入学共通テスト」、その中の英語の民間検定試験の利用や、数学と国語で一部記述式の導入、さらには枚数無制限の調査書やポートフォリオの重視など、入試制度が大きく変わります。また現在の中学1年生が高校に入学する2022年度からは、高校の教育課程＝カリキュラムが変わります。これらを見据えての改革ということでしょうか？

A：高校一・二年生に夏休みの課題として課した「探究課題」は、まさにそのような時代に対応するものです。

まずは自分で課題を見つける。そして図書館の本でもインターネットでもいいから自分で調べて考え、解決する。これを三年生になる前にやっておくことで、ＡＯ入試や面接試験で役立たせることができます。

Q：今の高校一年生からは、大学見学の機会も大きく増やしていますね？

A：これまでも一年生の秋に、特進コースは東京方面、総進コースは仙台方面の大学見学旅行に行っていましたが、地元の国公立大学をもっと見て欲しい。福島に住んでいて、福島大学を一度も見ることなく東京などの大学を選ぶというのは、あまりにもったいない。そこで一年生全員に福島大学を、特進コースの生徒に福島県立医科大学を、日帰りで見学してもらうことにしました。

また秋田の公立大学の国際教養大学は、これまで本校から進学する生徒はほとんどいませんでしたが、使える英語を身に着け国際社会で活躍する人材を育てるという点では、本校の方針と一致しており、もっと進学してもいい大学です。そこで二年次の夏にここの「イングリッシュビレッジ」という合宿プログラムに参加することを、今の一年生から計画しています。

Q：私たちに、どのような生徒像をお望みですか。

A：社会に貢献できる、自立した大人になってください。特に、自立を促すものとして「選択」という行為は大切です。そのために三年間という限られた時間に、できる限り自ら選択する機会を増やすための、今回の改革です。

ただし、今の皆さんが持っている、優しさや明るさを失わないようにしてください。

紙面紹介

2面 ●明治大学キャンパス見学記
●私たちのフクシマは、今
●私の学生時代
●18歳、いざ投票へ

部説

「ならふくプロジェクト」

インターハイ テニス部 卓球部 全国へ

東日本大震災から8年余り。その間にも2016年に熊本地震、昨年には西日本豪雨など、各地で大きな被害をもたらす大災害が発生した。だが自然災害の増加を実感する人が増えている一方で、被災地にあっても防災意識の薄れを感じさせられることもある。

桜の聖母学院高校のインターアクト部は、かつて本校ならではの部活動であった奉仕部が、福島21ロータリークラブの支援を受けて改組した部活動だが、大震災以降は福島市内の復興住宅訪問や、大きな津波被害を受けた宮城県名取市の閖上地区訪問など、震災の被害と向き合う様々な活動を続けてきた。閖上訪問では、道路や住宅などインフラ復旧が進み街づくりが本格化する一方で、目に見えない復興への道のりの遠さを学んできた。

そのような取り組みのあるべき姿や、私たちのできることを考えていこうというもの。これまで定期的なビデオ会議や被災地訪問、また講演などを通して活動を続けてきた。不定期ではあるが通信紙の発行やフェイスブック、インスタグラムの更新などで、広く活動を紹介している。

そしてこの8月、奈良の高校生と宿泊で行う「福島フィールドワーク」が、福島21ロータリークラブや福島県からの支援を受けて実現する。この一学期の間は、受け入れや発表のための準備などを進めてきた。

確かに、地震発生のメカニズムや予知の技術は進歩した。とはいえいつどこで地震が起きるかは、いまだに正確に予想できず、不安は尽きない。だからこそ大震災を体験した、次世代を担う私たちが、震災を風化させず伝えて行く義務がある。

オリンピックムードの高まりの陰で、忘れられがちなもの。今後30年以内に高い確率で発生するとされている南海トラフ地震、また近年の地球温暖化によって頻発している異常気象。それらに備える意識を常に持つことは難しいかもしれないが、これからの時代を担う私たちが、今回のような活動を通して、少しでも一緒になって考え続けることが、大切ではないだろうか。

このところ複数の部活動がインターハイ全国大会に出場するのが当たり前となった、本校の運動部。ただ今年は、3年連続出場中のサッカー部が、県大会の初戦で創部間もない尚志に1—2で敗れるという波乱で出場を逃したが、東北一の卓球部が団体と個人で、ソフトテニス部が個人2ペアで、南九州で開催された全国高校総体に出場した。

鹿児島市のインターハイ卓球会場にて

先陣を切って7月末に宮崎市で開催されたソフトテニス競技には、いずれも3年生の野地明日香さん・引地佑菜さんペアと、角田夏歩さん・齋藤百優さんペアが、個人戦の二回戦から登場。野地・引地ペアは初戦で敗れたが、角田・齋藤ペアは3勝して5回戦まで勝ち上がり、ベスト32に入る健闘を見せた。

一方、8月中旬から鹿児島市で行われた卓球競技には、まず学校対抗の団体戦に登場。1回戦で長崎女子商に勝利したが、2回戦では横浜隼人に敗れ、ベスト32で涙を飲んだ。ダブルスでは2年生の熊田佑莉さん・町田千尋さんペアが2回戦から登場したが敗退。最後に行われたシングルスでは、熊田さんが1回戦で敗れたものの、2回戦から登場の3年生原田優芽さんが、ストレートで勝利し3回戦に進出。しかし3回戦では惜しくもフルセットの末に敗れ、ベスト64で最後のインターハイを終えた。

どの部活動も、部員が出場可能人数ギリギリという中で、少数精鋭で頑張り続けている。ぜひ後に続く後輩に、今後も期待したい。

放送部もＮＨＫ杯全国コンテストに

毎年、ＮＨＫ杯全国高校放送コンテストに出場を果たしている、本校放送部。今年もラジオドキュメント部門で「Ｉ vs Ａ Ｉ」という作品が、全国大会に選ばれた。7月23日から、国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた準々決勝では、残念ながら勝ち進むことはできなかったが、この伝統を絶やさず挑戦を続け、いつかＮＨＫホールの決勝に出場してほしい。

教皇を福島に招いた高校生

今年3月末、朝日新聞に「いわきから避難の16歳、ローマ法王と面会」『福島で祈って』『行きます』という記事が掲載され、福島民報のコラム「あぶくま抄」もこの男子高校生を取り上げた。ローマ法王フランシスコ（以下「教皇」）は、今年11月末に日本を訪れるが、その際に福島に来るか関心を集めていた中でのこの報道に、私たちも注目し、7月末に当人の鴨下全生（かもしたまつき）さんに東京で会い、インタビューした。

上智大学隣の岐部ホールにて、鴨下全生さんを囲んで

現在、横浜のカトリック男子校の2年生の鴨下さんは、いわき市で小学校2年生の時に、東日本大震災と福島第一原発事故に遭遇。家族と共に東京に自主避難し、その後も東京で避難生活を続けている。転校先の小学校ではひどいいじめにあったが、中学校は家から遠い中高一貫校を選んで福島から避難していることを隠したことや、避難している子どもとその家族を支援する市民団体「きらきら星ネット」などが支えとなり、今では充実した高校生活を送っている。

だが故郷を奪い、家族を分断した原発事故と、それを忘れようとしている日本社会全体の流れに言いようのない不安を感じ、それを「きらきら星ネット」のスタッフに相談すると、「パパ様（教皇）に手紙を書いてみれば？」とアドバイスされた。そこで昨年10月に英訳を付けた手紙を送ったところ、一か月後にバチカンから「3月20日の一般謁見に、ぜひお越しください」と招待状が届いたのだ。

そこで鴨下さんらは、3月10日から4月5日まで、原発事故避難者の子ども4人と母親3人による、ヨーロッパ各地での講演ツアーを企画。ドイツ、イギリス、ベルギー、スイス、フランスなどで福島の現状を訴え、その中で3月20日の水曜日一般謁見に合わせ、ローマ・バチカンを訪れた。

当日は、カナダ在住の被爆者で2017年に「核兵器廃絶国際キャンペーン」と共にノーベル平和賞を受賞したサーロー節子さんらも招待されていたが、鴨下さんらは何とサーローさんたちより前に教皇と面会。鴨下さんが「来日時にはぜひ福島を訪れて、被災者のために祈ってください」と英語で伝えると、教皇は手を握り深くうなずいて微笑まれ、励ましの言葉をかけられたという。

しかし6月末に、11月23～26日の教皇来日スケジュールが発表され、そこに福島の地名はなかった。だが広島・長崎を訪れた後に、25日に東京ドームでミサを捧げ新天皇と会う予定の後は、26日の離日まで何もスケジュールが入っておらず、もしかすると抜き打ちで福島訪問があるかもしれない、と鴨下さんは希望を捨てていない。ただ、もし教皇の福島訪問が実現したとしても、それが世界に対する「安全宣言」に利用されることは危惧している。

あくまでもこのような事故が二度と起きないよう、そして事故で負った被災地と被災者の傷をいやす、祈りのために来ていただきたい、と願う鴨下さん。今回の出来事までは実名で報道されることを避けてきたが、原発事故が終わったことにされないためにも、これからは顔も名前も出して事故と避難者の思いを伝えていくと決意した、私たちと同世代の彼に、底知れぬ行動力と強い意志を感じた取材だった。

さようならAnna！

昨年二学期より、イタリアから本校英語科に留学していたアンナ・ロダさん。この一学期末で一年間の留学を終えて帰国する前に、留学で得たものや思い出などを語ってもらった。

Q：まず、イタリアのどこの町の出身ですか？

A：北イタリア、ロンバルディア州のクレモナ。バイオリンの発祥地として有名で、世界中から、特にアジアから多くの生徒が、バイオリンを学びに来ます。街を歩くとたくさんのバイオリン店があって、バイオリンの音が聞こえるのがとても綺麗で好きです。

Q：この1年間を振り返って思うことを。

A：間違いなく、私の人生の中で一番良い一年間でした。日本語ひと言で表すなら、「やばい」。とっても楽しくて、面白くて、スリリングなことがたくさんありました。この言葉は、素晴らしいことも、楽しかったことも、大変だったことも、全部表現できる言葉だと思います。

Q：日本の好きな所は。

A：すべて。でも特に食べ物。ラーメン、焼きそば、唐揚げ、とんかつ、お好み焼き、たこ焼き、お味噌汁…

Q：イタリア人に食べてもらいたい日本料理は？

A：イタリアでは寿司の方が有名ですが、私はラーメンが好きなので、ラーメンを食べて欲しいです。クレモナにはラーメン店は一店しかないのに、寿司店は10店もあり、不公平です。あと生姜焼きも大好きで、レシピを学んだので、帰ったら家族にいっぱい作りたい。

Q：日本とイタリアの違いを感じたことは？

A：日本は堅苦しい。イタリア人はもっとリラックスしてます。日本人はルールをとても尊重していると思いました。また、イタリア人にとって食べ物はとても大切で、もっと食事を楽しみます。イタリアでは、家にお客を招き入れることが、日本より多いです。クリスマスの時なんか20人もいました。そして、ずっと食べていました。

一方で、日本はとても綺麗です。道は汚れてない。イタリアではゴミ箱があっても汚いです。しかし、日本人は消費しすぎだと思います。学校でもたくさんの紙を使っていて、ショックでした。電気やプラスチックもです。また日本では女性の束縛がイタリアよりも大きく、男女の差があると感じました。また日本に来て、多くの人が私のことを見るので、びっくりしました。なので、あまり外出したくありませんでした。イタリアでは様々な人種がいることが当たり前なので、不思議でした。

Q：学校生活の違いは？

A：イタリアには、制服がありません。髪もカールできるし、色も染められるし、化粧もできるし、どこにでもピアスできるし、タトゥーもできる。携帯も使える。学校にいる時間も、もっと短いです。私の学校は8時から2時まで（1時までのところも）で、土日は休み。昼ご飯は家で食べるし、課外も部活動もない。セレモニーや朝礼・終礼もない。放課後に友達と話したりすることもないです。だから日本の学校の、部活やセレモニーや学校祭があるところが、とても楽しいと思います。

またイタリアでは、定期テスト期間もありません。テストは先生の好きな時にします。数学、物理、歴史、化学、倫理、英語、国語、カトリック宗教、芸術の歴史、美術の10科目を学びます。

成績基準についても、この学校では30点以上ですが、イタリアでは5点取れば合格。また、プレゼンテーションで行なうテストもあります。

Q：桜の聖母の印象は？

A：イタリアはみんなカトリックだけど、日本にカトリックの学校があるとは、来てみるまで知らなかった。また、女子校ということでおしとやかなイメージがありましたが、男子がいないからか伸び伸びした雰囲気があった。留学先がこの学校で、幸せでした。

Q：一番の思い出は？

A：何といっても学校生活。普通科の人たちと行った九州への修学旅行、そしてスポーツ大会！

Q：これからやりたいことや、将来の夢は？

A：他の言語を話すことや様々な場所を見るのが好きなので、いっぱい旅行をすること。将来の夢は、ファンタジーの小説家になって、若者に向けての本を書きたい。子供の頃からジブリ映画を観て育ったので、想像力が豊かなんです。

Q：最後にみんなにひと言。

A：私を受け入れてくれたことを、とても感謝しています。みなさんからＳＮＳなどを通じてメッセージをもらって、とても嬉しかったです。全員とは話せなかったけど、みなさん一人ひとりが私の一年間を作ってくれました。みなさんをとても恋しく思います。本当にありがとうございました。

スポーツ大会でクラスメートらとはじけるアンナ（中央）

桜華祭 一般公開は9月1日

毎年9月に開催される、本校の中学・高校の文化祭「桜華祭」。今年は恐らくこれまでで最も早く、8月31日（土）に内部公開、9月1日（日）に一般公開というスケジュールとなった。

今年のテーマは「百華繚乱～一度の青春 令和に咲け～」。既に夏休み中から各クラスで準備に取り掛かっており、県北地区唯一の女子校の文化祭として、他校とは一味違うおもてなしで一般来場者をお迎えすべく、工夫を凝らしている。

1日（日）の一般公開は、9時30分から15時まで（最終入場は14時30分）。例年通り、保護者も含め一般来場者の駐車場はないので、福島駅西口から徒歩約15分、もしくはバスや自転車等でお越しいただきたい。

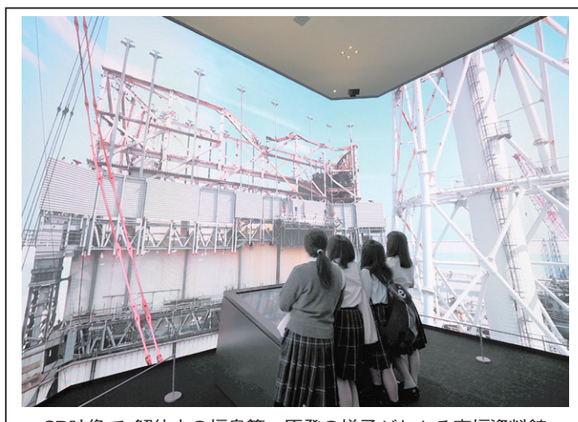
はりこ

▼2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会まであと1年を切り、町でもよくエンブレムを見かけるようになった。江戸時代に「市松模様」として広まったチェッカーデザインを、日本の伝統色である藍色で、粋な日本らしさを表現したものだ▼形の異なる三種類の四角形を組み合わせ、国や文化・思想などの違いを示し、違いはあってもそれらを超えてつながり合うデザインに、「多様性と調和」のメッセージを込めた。オリンピック・パラリンピックが、多様性を認め合い、つながる世界を目指す場であることを表現し、世界が支えあいながらつながることへの願いが込められている▼ギリシャで行われた古代オリンピックは、聖なる休戦と呼ばれる休戦期間に大会を開いており、近代オリンピックを復活させたクーベルタンも、この平和の祭典の復活を目指していた。しかし彼の願いとは裏腹に、近代オリンピックは国際政治の影響を色濃く受けてきた▼1936年のベルリン大会。ヒトラー総統の下、ナチス・ドイツの国威発揚に利用されたこの大会の期間中、表向きには反ユダヤ的・人種差別的な色彩は控えられた。しかし水面下でそれは着々と進行しており、また聖火リレーのコースは、3年後に始まった第二次世界大戦で、侵攻のために利用されたとされる▼戦後の東西冷戦期にも、西側諸国は1980年のモスクワ大会を、東側諸国は1984年のロサンゼルス大会を、それぞれボイコット。遡って1972年のミュンヘン大会では、パレスチナ・ゲリラが選手村を襲い、イスラエル選手団11名を殺害するという衝撃的な事件も起こった▼そして現在の国際情勢も、予断を許さない。ホルムズ海峡を巡るイランの動きや、アメリカ・トランプ大統領の各方面での言動が巻き起こす、米中貿易摩擦や、中距離核戦力全廃条約の失効など、世界は「新冷戦」に突入したと言う人々もいる▼受け入れる日本側にも、猛暑対策や水質基準など、新たな問題が今になって続出している。第1回大会から124年、第二次世界大戦の終戦から75年、そして前回の東京大会から56年の、2020年の大会を、平和の祭典として成功させるためには、世界の支えあいとつながりが、今こそ必要とされている。

私たちのフクシマは、今 ～富岡・楢葉（ならは）編～

昨年の夏には、東京電力福島第一原子力発電所（以下、福島第一原発）の北に位置する浪江町～南相馬市を取材し、特集記事にした。津波に壊されたままの請戸小学校や、避難解除になってもほとんど帰還者がなく荒れ放題の街並みに衝撃を受け、柳美里さんの書店「フルハウス」では、移住して被災地のために活動する芥川賞作家の決意に感動した。そして今回は、福島第一原発の南側の富岡町と楢葉町を訪れ、また違った視点から最新の浜通り地方の現状を取材した。

昨年11月にオープンした東京電力廃炉資料館


3D映像で、解体中の福島第一原発の様子がわかる廃炉資料館

富岡町は、ほとんどの地域で一昨年４月に居住制限が解除され、東京からのＪＲ常磐線が現在は富岡駅まで走っている。ただし富岡駅～浪江駅間はまだ不通のままで、常磐線の全線再開は来年以降の予定だ。２０１１年３月の福島第一原発事故の時点で約１万５千人だった人口のうち、昨年10月時点で帰還した住民は７９１人にとどまっているが、実際には住民票をおかない復興工事関係者も、多く住んでいる。

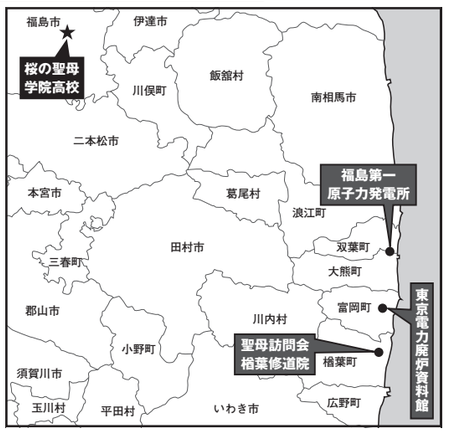
新築のアパートや一戸建てが並ぶ町の中心部の国道６号線沿いに、事故前は原発ＰＲの役目を果たしていた「エネルギー館」を改装し、昨年11月にオープンした「廃炉資料館」がある。ウエディングホールのような二階建てのおしゃれな建物で、私たちの訪問した日には、郡山の県立Ａ高校の生徒も大型バスで訪れていた。入場料は無料だ。

来場者が必ず最初に見るのが、２階シアタールームでの約８分間のムービー。８年前の実際の映像も使い、何が起こったかを東京電力からの「お詫び」を交えて説明している。英語版もあり、私たちの前のグループが外国人だったため、私たちもそのままの設定で英語版を見せてもらった。リスニングの勉強にもなるので、ぜひ挑戦を。

映像の後は２階から１階にかけて、ハイテクを駆使した展示を順番に見て行くコースになっている。人類が経験したあと２つの原発事故、１９７９年のアメリカ・スリーマイル島、１９８６年の旧ソ連・チェルノブイリと、今回の福島の事故との比較や、これから数十年かかるとされる、廃炉に至るまでの計画などが説明されている。福島第一原発は、現在はまだ燃料棒を搬出する行程の途中で、溶け落ちた核燃料デブリを取り出すのはその後。チェルノブイリでは放射線量が高すぎて、これらの作業を行うことができず、巨大なバリアで全体を覆うしかなかったが、福島では燃料デブリの取り出しまでを、何とか行う予定とのことだ。

作業員が着用する防護服やマスクなども展示されており、見学者も着用体験できる。実際に着ると息苦しく、また一定の放射線量を浴びてしまうともう作業を続けられないため、常に新しい作業員が必要となるという。これから廃炉までの数十年間、たいへんな行程を乗り越えなければならないことを改めて学んだ。

『原発に一番近い修道院』聖母訪問会楢葉修道院



富岡町の南、Ｊヴィレッジのある楢葉町は、ほとんどの地域が福島第一原発から20㎞圏内に位置し、事故当時の人口は約８千人。２０１５年９月に居住制限が解除され、今年６月末現在で町内に住む人は約３千７百人。もちろんそのほとんどが事故以前から楢葉町に住み帰還した人たちだが、新たな住民としてここを選んで移り住んだ人たちもいる。避難解除のわずか２ヶ月後に、福島第一原発から南へ約18㎞の民家を借りて修道院とした、カトリックの修道会「聖母訪問会」のシスターたちだ。当初は４名で住んでいたが、現在は２名。私たちはそのうち、開院当初からおられる藤原テル修道女にお話をうかがった。

鎌倉に本部を置き、「ご訪問の聖母」の姿を会の理念とする女子修道会「聖母訪問会」は、桜の聖母のような女子校や病院を運営したり、フィリピンや東チモールにシスターを派遣するなど、積極的な社会奉仕活動を行ってきた。最近はシスターの高齢化や会員数の減少などにより手を引く活動も出てきたが、東日本大震災以降は宮城県などで被災地の支援に力を注いでいる。その一つが、震災前には浜通りになかったカトリックの修道院を開いて、実際にそこに住んで被災者に寄り添いながら、祈りと活動を行うことだった。

しかし浜通り地方には修道院はもちろん、南相馬市の原町教会からいわきまでカトリック教会もなく、キリスト教文化がほとんど知られてない土地柄のため、ヴェールに十字架をつけたシスターという存在が受け入れられるまでには、苦労したそうだ。また当初は自家用車も持っていたが、大型工事車両だらけの国道６号線を運転するのは恐ろしく、現在は手放したという。それでも行動できる範囲で、老人ホームの介護ボランティアなどで、地域住民との交流を続けている。

最後に和室を改装したチャペルで、シスターと共に福島の復興を願って祈りを捧げた。私たちが普段唱える「主の祈り」や「アヴェ・マリアの祈り」を、違う修道会のシスターと唱えたのは新鮮だった。

聖母訪問会楢葉修道院のチャペルにて、シスター藤原と

國井先輩の案内で行く 明治大学キャンパス見学記

今年６月の教育実習生の一人、國井咲希先生が学ぶ、明治大学。いわゆる「ＭＡＲＣＨ」と呼ばれる東京の難関私立大学の一つで、野球やラグビーでも有名な名門校だ。今回はその國井先輩のご案内で、梅雨明け直前の猛暑の中の７月末、新聞部お得意の青春18きっぷによる東京日帰り往復で、本部のある駿河台キャンパスを取材した。

典型的都市型キャンパス 明治大学駿河台校舎

駿河台キャンパスのシンボル・リバティータワー

ＪＲ中央線の、快速も止まる御茶ノ水駅から「明大前通り」を５分も歩けば、林立するオフィスビルに並んで明治大学駿河台キャンパスがある。といっても緑が広がる大学キャンパスのイメージとは程遠く、周りのオフィスビルと変わらない高層ビルだ。ここ駿河台に明治大学が本部を置いたのは、創立から６年後の１８８７（明治20）年というから、その歴史がわかる。

明治大学は、１８８１（明治14）年、当時最先端の法律を学べたフランスへの留学から帰国した岸本辰雄・宮城浩蔵に、矢代操を加えた20代の青年法律家が、有楽町に設立した「明治法律学校」を母体とする。創立者が一人だけという私立学校も多い中で、この明治大学は三人を共同創立者として崇敬する大学だ。

國井咲希先輩

本部のあるこの駿河台キャンパスの他にも、京王電鉄京王線の「明大前駅」の前にあって主に文系学部の１・２年生が学ぶ和泉キャンパスがあり、國井先輩も１・２年次にはここで学んだ。他にも国際日本学部・総合数理学部の全学年が学び、付属の「明大中野高校」でも知られる中野キャンパス、そして理工学部・農学部の全学年が学ぶ、生田キャンパスがある。著名な卒業生には、最近では向井理や山下智久、北川景子や井上真央ら。もう少し上の世代では、楽天が日本一になった時の監督・星野仙一氏や、「ＵＦＯ」などで知られる作詞家の阿久悠氏、前オリンピック担当大臣の桜田義孝氏ら。そして教授には文学部の斎藤孝先生が。

「おお～明治～」で始まる校歌を始め、ラグビー部のモットーから有名になった「前へ！」のキャッチコピー、そして最近ではゆるキャラの「めいじろう」など、早稲田や慶應にもひけをとらない愛校心の強さでも有名。また駿河台キャンパスのシンボルの一つで、年中様々な学会が開催されている、総ガラス張りの「アカデミーコモン」の地下には、明治大学博物館があり、一般人も無料で観覧できる。常設展には重要文化財にも指定されている展示品も数多くあり、法学部から始まった大学らしく「刑罰の歴史」コーナーでは、ギロチンを始め世界中の処刑道具などが展示されていて、ちょっぴり恐ろしいが興味深い。

ゆるキャラ「めいじろう」

大学選びはまず自分が学びたい分野から

明治大学駿河台キャンパスの中心、23階建ての「リバティータワー」には、文系学部の３・４年生の授業が行われる講義室があり、学生はエスカレーターや展望エレベーターで移動する。大学というより大企業の本社ビルか、はたまた大手予備校の巨大版のようなたたずまいだ。道路を挟んだ向かい側には、昨年何かと話題になった日本最大の私立大学の駿河台キャンパスもそびえている。

ここの17階にある学生食堂「スカイラウンジ暁」は、御茶ノ水や神保町界隈を一望しながら食事がとれる絶景スポット。学食なだけにリーズナブルで、運動部の男子学生も満足の「トリプルカレー」や「トリプルラーメン」は５４０円。

ここで一緒に昼食をとりながら、國井先輩にお話をうかがった。優秀な國井先輩は３年次までで卒業を満たす単位をとってしまったため、現在は福島の実家から、卒論準備など必要な時だけここ駿河台キャンパスに新幹線通学している。

まず先輩が高校時代に興味を持ったのは、１年次に「世界史Ａ」を教えてくださった先生の、考古学への情熱だった。そこで考古学を本格的に学べる大学を調べ、１年生後半から早稲田大学を第一志望に。ところが文系私立大学受験には絶対強くなければならない英語が、当時は苦手で、「システム英単語」という問題集を使ってひたすら語彙を増やしたという。その結果、偏差値43だった英語が、60にまでアップ。

推薦などには目もくれず受験した２月の一般入試で、本命の早稲田大は残念ながら不合格だったが、見事に明治大とＫ大に合格し、この明治大を選んだ。学芸員や社会科（地歴公民科）教員の資格がとれることなども、決め手となった。大学では考古学の先生に自ら声をかけ、発掘作業に同行させてもらうなど、充実した４年間を送っている。

桜の聖母では、指定校推薦をはじめとする推薦受験で、年内に大学合格を決める人も多い。自分が本当に学びたいことが指定校推薦の大学・学部にある人は、もちろんそのような受験方法で構わないが、最後まで一般受験で自分が学びたい大学・学部に挑戦することの大切さを、國井先輩に教えていただいた。大学に入ってからの満足度こそ、何より大切な要素なのだ。

アカデミーコモンの前で、國井先輩（右端）と

私の学生時代 ～小林直哉先生の巻～

明治大学に進学したのは、高校２年生の全国選抜卓球大会で３位に入賞したにもかかわらず、３年生のインターハイにはまさかの敗戦で出場できなかった、悔しい思いがあったからでした。卓球日本一の大学でもっと強くなりたい！と明治大学を希望したことがきっかけで、私は学生時代に多くの財産となる「人」と「経験」に出会うことになりました。

卓球に打ち込んだ学生生活でしたが、その４年間を過ごした大学の合宿所の思い出なくしては語れません。大学からの最寄駅である三鷹と吉祥寺のちょうど中間地点の線路沿いにある、平沼園卓球会館の隣が合宿所でした。入り口の右手に大家の自宅、左手にマンションがあり、その奥正面が卓球会館。初めて訪れた時、「やっぱり日本一の卓球部は違うな、このマンションに住むのか」とワクワクしたのを覚えています。が、実際は入り口から死角になっている、卓球場の扉一枚開けた隣の、築〇十年の２階建ての建物が合宿所でした。その事実を目の当たりにし、母親が泣きました。トイレもシャワー室も台所も１台しかない洗濯機もすべて共同、出没するネズミと格闘したり、屋根に上って日焼けをしたり、部屋も相部屋で男ばかり25人の合宿所が、私の青春の原点です。

そんな伝説の平沼園に入寮したのは、高校３年の２月。卒業式を終えて午後には台湾遠征へ行き、春の大学リーグ戦のメンバーに選抜されて４月を迎え、日本武道館での入学式から本格的な大学生活が始まりました。

５月の関東学生リーグは、新記録の７連覇がかかった勝負の年で、体力も精神力もすべてを費やした試合でした。あの時のチーム一丸となって勝利した「明治魂」は、これこそチームワークと心に刻まれ、勝利した喜びの感覚とともに現在の指導でも大切にしている根幹となっています。一年次の試合後は、痛烈な筋肉痛に体力不足を痛感し、真面目に毎日のランニングとトレーニングに励んだことを覚えています。

３年になると「主務」という役をすることになり、チームをまとめるテクニックと大変さ、事務仕事のノウハウ、人との繋がりの大切さを身に付けたことが大きな財産です。ＯＢからいただいた激励金のお礼を、すぐにせずにその後直接お会いした時にお礼したのを、「お礼と返事はすぐにしろ」と指導されたことがありました。この教訓は今でも私の中で生き続けており、「礼儀」や「チームワーク」の大切さを自覚し実行できる人を育てられるように意識しています。４年生になると、後輩のお世話をすることもよくありました。バカな後輩の失態にお店に謝りに行き、付き添いで救急車に乗り、病院でしこたま叱られたことも苦い思い出です。

映画『ピンポン』の技術指導に携わり、窪塚洋介や中村獅童、大倉孝二、井浦新など今でも活躍している俳優陣と仕事をさせていただいたことも、貴重な経験でした。大学の監督が技術指導担当となり、その手伝いで俳優に卓球のフォームの指導を直接させていただき、みな紳士的だったことが印象的でした。『ピンポン』ビジュアル・シネブックにはオフショットの一枚に、細く若かりし学生時代の私が載っています（笑）。

大切な仲間と共に一つのことに熱中した学生生活が今の自分の一部分となり、そこで学んだことを次の世代に継承することが今の私の役目だと思っています。まもなく90周年を迎える明治大学卓球部、駿台卓球会の一員であることは、私の誇りです。90年という歴史と伝統を作り上げ、引き継いでいく精神は大変尊いことだと思います。桜の聖母も昨年80周年を迎えた、歴史と伝統のある学校です。皆さんのこれからの進学後や、社会に出た後にも、その一瞬一瞬が何十年後であっても輝いて蘇ってくるような、たくさんの思い出を作ってください。

18歳、いざ選挙へ！

初投票 ゼロ票確認 体験記

３年前の参議院議員選挙から、投票年齢が18歳に引き下げられ、現役高校生の一部が有権者となった。当時は大騒ぎした報道のほとぼりも冷めてしまったが、私たち高校３年生で新たに選挙権を得る者にとっては、とにかく初体験。しかも今年は７月21日の参議院議員選挙の前に、福島市民には６月23日に市議会議員選挙もあり、全国の同級生より一足早く初投票できる。

そこで、選挙権を得た３年生の新聞部員は、最初の投票者が投票箱の中身を確認するという都市伝説「ゼロ票確認」を確かめるべく、記念すべき初投票での投票所一番乗りを目指した。

投票開始は朝７時だが、何時から並べば一番になれるかわからなかったので、寝坊しないように前夜は徹夜し、朝の４時50分に投票所へ。季節が季節だけにもう明るかったが、新聞配達の人より早かった。６時頃に係員の人たちがやって来て、準備を開始。６時45分頃から、投票に訪れる人が集まり始めたが、ごめんなさい２時間前からもう私が並んでいたのよ。後から聞くと全国には、毎回一番乗りを継続している「ゼロ票確認ガチ組」という人たちがいて、もしかするとこの投票所で投票する人たちの中にも継続者がいたかもしれないが、今回は初体験の女子高生に譲ってね。

６時59分、係の人が時計を見始め、７時ぴったりに開場。まず私一人だけ中に通され、投票用紙をもらって候補者の名前を書き、いざ投票する直前に係の人から「投票箱の中が空であることを確認してください」と言われ、キターッとばかり大きく蓋の空いた投票箱を確認。さらに「鍵をかけたことも確認してください」と言われ、蓋が閉められ施錠された投票箱についに投票できた。

最後に、確かにゼロ票確認をしましたという書類に名前と住所を書き、私の初投票初ゼロ票確認は終わった。待っていた時間の割にはあっけなく、何か記念に貰えるのかと期待していたので、少し残念。でも初投票でのゼロ票確認は、もう一生できないので達成感があった。あと、色々な人に褒められた。次は期日前投票に行ってみたいし、何より今後も棄権しないで選挙を「皆勤」したい。

これからゼロ票確認に挑戦する人へ。投票所にもよるが、６時半までに行けば一番になれる可能性は高い。トイレは済ませて行く、雨に備えて傘や、折り畳み椅子も必携。夏は虫除けも。

投票所入場券を持つ、有権者の３年生たち

編集後記

☆アンナ可愛かった。アンナいい子。アンナらぶ。また逢う日まで。（イタリア）
♪去年の筑波大に続き、またもや台風が心配された大学取材だったが、無事行けて良かった。（アメリカ）
▲取材で東京に行くのも、鈍行で東京往復するのも初体験だった。（カンボジア）
◆初めての取材でよくわからなかったが、次回から頑張ります。（アイルランド）
♣東京往復は大変だったが、色々な人の話を聞けて良かった。國井先輩可愛かった。（ドミニカ）
☀富岡楢葉取材、帰りのデコボコ道と荒い運転で、お昼の海鮮丼が逆流しそうになった。（カタール）
●ならふくという食堂の海鮮丼は絶品。楢葉にお越しの際はぜひ。（ルーマニア）
■楢葉の修道院でいただいたアイス…車のないシスターが遠いスーパーからどうやって買ってきたのか不思議だった。（アイスランド）
♠今回はどこにも取材に行けなかったので、次号で海鮮丼リベンジ！（ドイツ）
♥私も初投票ゼロ票確認したかったが、投票開始時間を間違えた…涙。（ツバル）
■高校生富士登山に参加した。疲れたが無事登れてよかった。（ルクセンブルク）
＊校長先生に直接うかがえるのは、新聞部ならではの経験だった。（クロアチア）
☂部員が増えて15人になり、部室に入れない。廊下を板で仕切っただけの部室は暑すぎ。（アルメニア）
◎遠かったりお腹減ったりの取材もあったが三年間楽しかった。（アルジェリア）
♣一年前の４ページ仕立てを、もう一回くらい作りたかった。（アルゼンチン）

福島県知事許可（般-29）第22204号
中小企業IT経営力大賞 審査委員会奨励賞
有限会社 古山鉄筋工業所
専務取締役 古山 吉浩
2級建築施行管理技士 鉄筋基幹技能者
〒969-1761
福島県伊達郡国見町大字藤田字アラ田10-1
TEL (024)585-5129
FAX (024)529-6028
URL http://furuyamatekkin.com
E-mail : furuyama.tekkin@me.com

コックさんのからあげ屋 野田町店
当店
桜の聖母学院高校
サーパス野田町
からあげ・各種弁当・お惣菜
TEL 024(533)0330
FAX 024(597)6772

大学受験対策フェア実施中!
センター試験対策はできていますか?
大学過去問・各社センター対策・願書など気軽にご相談下さい!
FB N 文化情報発信館 西澤書店
大町店 福島市大町7-20 Tel.024-522-0161 Fax.024-522-4139
北 店 福島市南矢野目字中江12-5 Tel.024-557-5101 Fax.024-557-5107

創業明治38年（1905年）地域と共にさらなる1世紀へ
ISO 9001 ISO 14001 認証取得
総合建設業
㈱利根川組
代表取締役 利根川 靖幸
本 社
福島県伊達市霊山町掛田字本山57番地1
TEL:(024)586-3121
FAX:(024)586-3122
URL:http://www.tonegawagumi.jp/
整備工場
福島県伊達市霊山町字本山56番地
TEL:(024)586-3181

感動のそばに、いつも。JTB
旅は心の窓を広げます
お問い合わせ・お申込みは下記店舗まで。
―団体旅行―
㈱JTB福島支店
〒963-8004 福島県郡山市中町10-14 和久屋ビル2階
TEL 024-932-0657 FAX 024-933-6620
営業時間 9:30～17:30（土・日祝休業）
―グループ・個人旅行―
㈱JTB福島イトーヨーカドー店
〒960-8068 福島県福島市太田町13-4 イトーヨーカドー福島店1階
TEL 024-531-3090 FAX 024-531-3088
営業時間 10:00～19:00（イトーヨーカドーの休館日休業）